

A Pilot Study of Health Education for Cancer Control : Development of "Karuta" to Learn Cancer Control

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-01-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: SUZUKI, Tomoko, IOKA, Akiko, TSUKUMA, Hideaki メールアドレス: 所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/3890

BY-NC-ND

がん対策推進のための健康教育の試み —教育ツール「がんカルタ」の開発—

学芸学部 健康栄養学科 鈴木 朋子
大阪府立成人病センターがん予防情報センター 井岡亜希子
大阪府立成人病センターがん予防情報センター 津熊 秀明

要旨：わが国において、がんは重要な健康課題である。したがって、地域がん登録資料の分析から示唆されたがん対策のあり方を広く一般の人々に理解してもらうことは、科学的根拠に基づくがん対策を推進する上で、効率的であると考えられる。そこで本研究では、大阪府におけるがん対策として、地域がん登録資料の分析等、科学的根拠から導き出された方向性について、一般の人々が楽しく学ぶための健康教育のあり方を検討し、健康教育場面で活用できる教育ツール「がんカルタ」を開発した。開発した「がんカルタ」は、がんの現状、がん対策の方向性、個人としてできることを示した呼びかけの3種類に分類され、合計44枚のカルタ札で構成された。また、これらカルタの内容を日めくりカレンダー形式にとりまとめた副教材「がんカレンダー」を作成し、知識の定着をねらいとした。科学的根拠に基づくがん対策を学習するための教育ツールとして、健康教育の場で広く活用していきたい。

キーワード：がん対策、健康教育、教育ツール、大阪府

問題と目的

わが国では平成18年4月にがん対策基本法が制定され、翌年にはがん対策推進基本計画が策定されるなど、がん対策が重要な健康課題として位置づけられている。

がんの征圧を効果的に実施するためには、地域がんの実態に即したがん対策の展開が必要である^{1,2)}。地域がん登録は、対象地域の居住者に発生した全てのがんを把握することにより、がんの罹患率と地域レベルの生存率を計測する仕組みである³⁾。

地域がん登録資料の分析から示唆されたがん対策のあり方を、広く一般の人々に理解してもらうことは、科学的根拠に基づくがん対策を推進する上で大きな効果が期待できる。しかし、地域がん登録資料の分析される内容は、専門性が高く一般の人々に理解されにくいという特性をもつ。そのためこれらの資料は、がん疫学の研究者や一部の行政担当者や保健医療従事者の間でしか活用されてこなかった。

そこで本研究では、地域がん登録資料に基づく研究成果を広く普及することを目的に、一般の人々が楽しく学べるという点を重視した教育ツールを開発することを目的とした。なお、本研究では、大阪府における研究成果に基づいて着手することとした⁴⁾。

方法

開発メンバーは、一般の人々に理解されやすいという点を重視し、がん対策および健康教育の研究者のほか、栄養士・管理栄養士養成課程で学ぶ大学生で行った。

開発手順は、まず教育ツール開発に必要な専門基礎知識を共有することを目的に、地域がん登録資料のがん対策への活用に関する学習会を行った。次に、専門家の視点と一般の人々に近いと考えられる学生の視点を調整しながら、開発する教育ツールの学習目標を明確にした。そして、学習目標を達成するための教育ツールの形態を検討し、試案を作成した。さらに、作成した試案を医学的、教育的視点から再検討を行い、完成させた。

開発する教育ツールの科学的根拠は、主に大阪府がん登録資料に基づいて作成された保健医療従事者等、専門家向け資料「統計でみる大阪府のがん—10年でがん死亡20%減少へのアクション—」に基づいた⁴⁾。

結果

1. 学習目標

開発する教育ツールの学習目標は、1) 科学的根拠に基づくがん対策行動およびその関連知識を習得する

こと、2) 習得した知識を基礎としてがん対策行動への動機を高めること、3) 自分自身のがん対策行動や自分の周囲の人へのがん対策行動に関する声かけ行動を実践できるようになること、とした。

なお、がん対策行動とは、大阪府のアクションプランとして示された4分野のがん対策行動とし(表1)、その関連知識とは、がんやがん対策、がん医療の現状等、がん対策行動をサポートするものと定義した。

表1 教育ツールにおける個人のがん対策行動の方向性⁴⁾

分野	がん対策行動
たばこ対策	禁煙、受動喫煙の防止、未成年者の喫煙防止
肝炎ウイルス対策	肝炎ウイルス検診の受診
がん検診	胃・大腸・乳房・子宮頸部がん検診の適正時期の受診
がん医療	がん医療に関する社会資源の活用

2. 教育ツールの形態

教育ツールの形態は、ルールが明確で遊び方を誰もが知っている「カルタ」を採用した。

その結果、がん対策という専門的で多岐にわたる内容を、楽しく覚えやすい文言とイラストで構成するこ

と、がんに関する専門知識のみならず、「わが国でがんは特別な病気ではなく、誰でもかかる可能性がある」ことや、「がん対策として、あなたにもできることがある」というような、個人々人への動機づけのメッセージを織り込むことが可能になった。

3. 開発した教育ツール

これらの方針に基づき、44札で構成される「がんカルタ」を開発した(表2)。それぞれの札は、「がんの現状」「がん対策」「呼びかけ」の3カテゴリのいずれかに分類された。「がんの現状」は、がんの現状に関するメッセージ、「がん対策」は、がんの予防や早期発見・早期治療など、学習者の身を守るメッセージ、「呼びかけ」は、がんの現状や対策を踏まえた学習者自身や学習者の周囲の人へのメッセージとした。またこれらのことが視覚的にも伝わるようそれぞれイメージカラーを設定した。

各札は、表面は、頭文字、カルタの文言、文言をイメージするイラストで、裏面は、カルタの文言を説明する解説文と参考資料で構成した(図1)。解説文は端的な文章とし、より深く学習できるよう参考資料としてカルタの文言の根拠となる出典を示し、資料の名称とwebアドレスを記載した。

表2 がんカルタの文言—がんの現状・がん対策・呼びかけ

がんの現状 (13札/イメージカラー:黄)	内容	呼びかけ (21札/イメージカラー:ピンク)	内容
に につぼんは 世界有数の がん大国	がん全般	あ あなたにも 知ってほしい がん登録	地域がん登録
い 一生で かかる確率 高い” がん”		ふ 不思議だね みんな知らない がん登録	
と どこのがん? 部位で異なる 生存率		ほ ほんまに大事 命を守る がん知識	がん知識
け 県ごとに 死亡率異なり 大阪ワースト1!2!		わ 私から あなたへ伝える がん知識	
し 市によって 大きく異なる がん死亡		つ 使って 覚えよう! がんカルタ	
お 大阪は 低いよ検診 受診率	へ 平凡な 日々迫る がんの恐怖	予防の必要性	
な 難台がん かかる人多い 肝がん、肺がん	く 苦しいよ かかる前の 予防が第一		
き 喫煙率 なかなか減らず 肺がん増加	肺がん	む 難しい! 早期で見つけて 肺がん治す	たばこ対策
せ 世代間 大きく異なる 肺がん流行		や やめとこう たばこ1本 がんのもと	
れ 冷蔵庫 家庭に一台 胃がん減る	胃がん	す 吸わないで あんたがよくても みんなが困る	
ち 着実に 増え続けている 大腸がん	大腸がん	ぬ ぬらわんだと!? 中高生で 喫煙者!?	
め 目を見張る 小児がんの 医療の向上	小児がん	ろ 老若男女 必要不可欠 予防と検診	予防・検診
ら 卵巣がん 種類多く 治療成績さまざま	卵巣がん	た 大事だよ 早期発見 早期治療	
がん対策 (10札/イメージカラー:青)		て 適切に 受けて助かる がん検診	がん検診・早期発見
る ルートを示す がん対策の 羅針盤	地域がん登録資料の活用	の 延ばそうよ 検診受けて 大事な命	
り 罹患率と死亡率 一緒に使って がんウォッチング		ゆ 有効な 検診広めて がん対策	
こ これからの 対策で減らせ がん死亡	対策全般	さ さあ行こう! 年に一度の 胃がん検診	がん検診-胃
ま 待ってられない 最優先の たばこ対策	たばこ対策	も もう受けた? 検診で命守る 大腸がん	
え ええじゃないか! 肝炎ウイルス検診 1度で有効	肝炎ウイルス対策	ね 年々増える 女性の乳がん マンモが大事	がん検診-乳
う うそ?ほんど? 効果の確かな検診 そうでない検診	がん検診	よ 要注意! これから増えるよ 子宮頸がん	
そ 早期発見 地域で異なる 達成度		は 二十歳から 子宮頸がん まず検診	
か がん医療 受ける権利は 誰にでも	がん医療		
ひ 日々推進?! がん医療の 均てん化			
み 皆で知ろう! 病院の特色 役割分担			

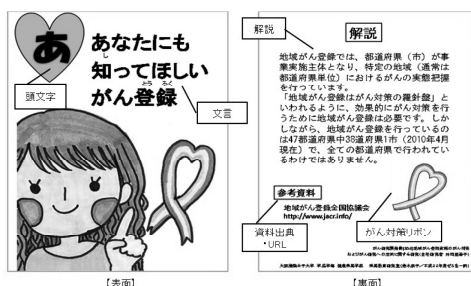


図1 がんカルタの札の例 (A6版・ラミネート加工)

開発した教育ツール「がんカルタ」は、授業等の教育場面で、教材として楽しく学ぶことができるが、教育効果の定着を期待するには、教育終了後に継続して働きかけるための教育ツールが必要と考えた。

そこで、「がんカルタ」の内容を、日めくりタイプのカレンダーにとりまとめた「がんカレンダー」を副教材として開発した(図2)。形態は卓上式のカレンダーとし、毎日「めくる」という行動を実行することにより、知識の定着をねらいとした。



図2 がんカレンダー (卓上・A5版)

考察

本研究では、地域がん登録資料に基づく研究成果を広く普及することを目的に、専門家向けに作成された資料を科学的根拠としながら、一般の人々が楽しく学べるという点を重視し、「がんカルタ」と「がんカレンダー」を開発した。

教育ツールの学習目標の設定にあたっては、知識の習得のみならず態度や行動の変容へとつながることを重視した。すなわち、がんの現状やがん対策の方向性について理解し、呼びかけを通して、学習者やその周囲の人ができることについて気づきを促すことをねらいとした。

教育ツールの形態については、前述の学習目標を達成するには、まず、がん対策に関する正しい知識を幅広く認識する必要があると考え、そのために適した形態を検討した。新興・再興感染症や食の安心・安全などの公衆衛生学の分野の教材の例として、日本公衆衛生協会から、カードゲームを活用したものが出版され

ている⁵⁾。カードゲーム特徴は、多岐にわたる情報をそれぞれ1枚ずつのカードに個別の情報として整理できることである。

がん対策を包括的に学ぶには、個々の情報を幅広く理解し、それらを総合することが必要である。そこでカードゲームのなかでもルールがシンプルな「カルタ」という形態を採用することで、教育ツールの使用対象が広がるものと考えた。また、「がんカルタ」の内容を、日めくり形式のカレンダーにまとめることにより、パンフレット等の印刷教材と比較しても、日々の生活のなかで取り入れやすい形態となったものとする。

近年、例えば、財団法人日本対がん協会が中学生を対象としたがん教育教材を開発するとともに、「がん教育基金」を設立し中学生を対象とした教育の普及に対する報告もみられるが⁶⁾、わが国においては、がんの現状や対策の方向性、個人としてできることなど、がん対策に関する包括的な内容を示す教材や教育プログラムはほとんどみられない。そのようななかで、本研究で開発した教育ツールは、科学的根拠に基づき、かつ、一般の人にも楽しみやすいという視点を確保できたのではないかと考える。

現在、開発した教育ツールを活用し、大学生、高校生、中学生、一般の方々等を対象に、グループワークを中心とした健康教育の実践に取り組んでいる。数十人の教室形式の場で、小グループにわかれ「がんカルタ」を行った後、がん対策行動に関する知識の定着や動機を高めることをねらいとしたグループワークを行い、復習用の教材として「がんカレンダー」を配布するという教育プログラムである。

平成24年6月に策定された第2次がん対策推進基本計画では⁷⁾、分野別施策と個別目標のなかで「がんの教育・普及啓発」という分野が新設され、「子どもに対するがん教育のあり方を検討し、健康教育の中でがん教育を推進する」ということが明記されている。今回の教育ツールの開発の経験を踏まえ、がんをテーマとした健康教育のあり方について検討を重ねていきたい。

文献

1. World Health Organization: Cancer Control Knowledge into Action, WHO Guide for Effective Programmes. Planning. (<http://www.who.int/cancer/modules/Planning%20Module.pdf>) (2013年9月17日アクセス)
2. Cancer Control P.L.A.N.E.T

- (<http://cancercontrolplanet.cancer.gov/index.html>) (2013年9月17日アクセス)
3. 祖父江友孝、津熊秀明、岡本直幸、味木和喜子、編：地域がん登録の手引き 改訂第5版、p2、第3次対がん総合戦略研究事業「がん罹患・死亡動向の実態把握の研究」班 厚生労働省がん研究助成金「地域がん登録制度向上と活用に関する研究」班 地域がん登録全国協議会、2007.
 4. 大阪府立成人病センター調査部：統計でみる大阪府のがん－10年でがん死亡20%減少へのアクション－、2007.12. (非売品)
 5. 財団法人日本公衆衛生協会.
(http://www.jpha.or.jp/sub/menu05_2.html)
(2013年9月17日アクセス)
 6. 公益財団法人日本対がん協会
(<http://www.jcancer.jp>)
(2013年9月17日アクセス)

7. 厚生労働省がん対策推進基本計画
(http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/gan_keikaku.html)
(2013年9月17日アクセス)

本研究は、がん研究開発費（20-2）地域がん登録資料のがん対策およびがん研究への活用に関する研究（主任研究者 井岡亜希子）、および大阪樟蔭女子大学学芸学部食物栄養学科栄養教育研究室平成22年度ゼミ生による卒業研究の一環として実施した。

教材開発は、主にゼミ生の大杉奈々さん、笠木麻里恵さん、川村歩さん、森綾香さんが中心となって取り組んだ。

概要を特定非営利活動法人地域がん登録全国協議会第19回学術集会（横浜市、2010年10月）にて発表した。